

## 創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅢ

北村 恵子

### Ⅰ はじめに

創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅠでは、学生の創作したオペレッタ「カッパの夢」をとり上げ、それを構成する主要素について、短期大学の幼児教育科の学生の意識調査をもとにその受容感覚について分析考察し、各要素の受容に関する内容を明らかにすることを目的にしたものであった(注1)。また、創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅡでは、「カッパの夢」の特にストーリーにおけるドラマ性について考察を加え、観客を作品に集中させるためのよりよいストーリー運びの工夫や展開方法の分析をしたものである(注2)。そのⅠで分かったことは、創作オペレッタを構成する要素のうち一番印象に残るのがストーリーで、その作品を決定付ける第一要素であること、それに次ぐ音楽もストーリーと拮抗する要素であることである。その結果にもとづいて、今回は「カッパの夢」の特に音楽の要素に焦点を絞って論じてみたい。

### Ⅱ 「カッパの夢」で使われる音楽

#### 1. 曲作りについて

「カッパの夢」のストーリーは、創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅡに述べたように、すべて学生たちのオリジナルであり、現実にはいないカッパの世界を想像して描いたものである。カッパ伝説は日本全国に分布しそのタイプも様々であるが、この「カッパの夢」は人馬を引き込む型に属しており、カッパが何故この世にいなくなったのかをイメージして創作したものである。従って、曲作りに当たっても、日本の昔からの伝説という雰囲気を出す作曲手法がとられている。また、ストーリーの結末も、カッパがこの世から消えるという悲劇性を持つため、メロディーは短調のものや日本音階のものを中心として作曲されている。この作品で創作された曲は合唱曲3、重唱曲5、独唱曲21、描写音楽2の、合計31曲である。また、効果音にも工夫が見られた。さらに、描写音楽にはテーマの曲やカッパ音頭のメロディーやテンポに工夫を加えたものが使用され、場面にマッチするように考えられている。伴奏はすべてピアノで行われ、一人ないし二人で弾いている。作曲は希望者が担当したが、役を演じる本人が歌い易いように自分で作曲したものもある。伴奏曲はピアノ担当者が作曲している。

幼児教育科に在籍する学生は、一般的には音楽に長けている者は少なく、作曲は容易なことではないようだ。まず歌詞を作りそれにメロディーを付けていくが、いわゆる字余りという曲もあり、従って、小節数も不安定な奇数であったりする。音楽様式よりも、とにかく歌詞に音

符を付けていくといった感じの作曲も見られたが、皆で何度も歌い合い修正を加え、最終的には歌い易く雰囲気のある曲に定着した。

## 2. ストーリーの流れと音楽

創作オペレッタの構成要素には、ストーリーや音楽の他にも送り手と聞き手との関係を意識した演技、照明、音響、舞台装置、衣装やメイキャップ、それに、舞台構成についての要素などがある。中でもストーリーと音楽とは特に重要な要素である。しかし、両者を切り離して論ずることは難しい。例えば、音楽がストーリーそのものを展開することもある。即ち、歌詞によって物語の筋が進み、メロディーの音調がその場の雰囲気や背景を表現し、また、登場人物や物そのものを音や音楽で推測させることもある。これらは、音楽がノン・バーバルなコミュニケーションである証しである。

さてここでは、「カッパの夢」の粗筋を場面を追って記述し、特にストーリーの流れに音楽を付加することにより、どのようなインパクトを与えることが出来るかについて考察を加えてみたい。

①《昔々ある村に川が流れており、そこに心の優しいカッパたちが住んでいたが、いつも人間たちと仲良くなりたいと思っていた》

幕が上がる前に歌われる序曲とも言える「カッパの夢」(楽譜1。以下楽譜はすべて巻末に記載)が、この創作オペレッタの時代背景とこれから展開されるだろう場面の雰囲気を伝えている。いわゆるナレーター的な役目を果たしている。時代は昔々、きれいな川を囲んで鄙びた村があり、その川の中に心の優しいカッパの世界があること、カッパたちは村人たちと仲良くなりたいと思っていること、ある日、カッパの小太郎たちは村の子供たちと仲良くなったこと、村人たちはそれに反対であることなどである。これはGmoll 4分の4拍子の二部合唱曲で、途中にピアノの間奏を含み、全体に日本的な情緒と、カッパという異界の動物と人間が織り成す物語の不思議さに対する期待を承起させる雰囲気が醸し出されている。これは、観客を劇に誘い込むための役目を充分果たしているものである。この曲の途中で幕が開き、子供たちが遊んでいる場面が始まる。

②《子供たちとカッパとの遊びが展開される。ゆきのが不注意で川に落ちてカッパに助けられるが、カッパが悪いと誤解される。しかし、間もなく誤解が解け、村人たちとの交流が始まる》

この場面の冒頭は、子供たちの言葉のやりとりをわらべ歌調に仕立てた「遊びましょ」(楽譜2)で始まる。次に同じ調子の「カッパを遊びに誘う歌」(楽譜略)が続き、現れたカッパたちに教えてもらう「カッパ音頭」(楽譜3)が、踊りを伴って歌われる。この「カッパ音頭」はこの後ピアノだけの使用も含めて8回使用される。これは軽快な4分の2拍子8小節の日本音階の簡単な旋律で出来ており、皆で丸く円を作り手拍子を伴い音頭として踊りながら歌われるた

めに、観客との一体感が生まれ、物語がぐっと身近に感じられたものと考えられる。これは、この作品の中では中心的存在の曲になっている。また、カッパが消滅してもこの歌だけ残されていくという伝承音楽の宿命を暗示する意図で作られたものであり、回数の多さのためかオペレッタ終了後にも観客の口からこの曲が零れ出るということも見られた。「カッパ音頭」の後、「ジャンケンポン」「オニさんこちら」や小太郎とゆきののやりとりのメロディーなど（楽譜略）、殆どがわらべ歌調のものである。また、ゆきのの母親と小太郎およびその母親の、誤解を解くやりとりの歌も、すべて日本音階のメロディーであり（楽譜略）、素朴な雰囲気ですてきな時間の流れを感じさせるものとなっている。この場面の最後に「カッパは悪戯大好き」（楽譜4）の曲が入り、次の場面の川の中のカッパの世界に移行していくが、これも4分の4拍子16小節の日本音階で作られている。舞台が暗転となった中で合唱で歌われるこの曲は、次の場面のカッパたちの激しいやりとりを予想させるものではなく、心の優しいカッパが仲良く人間たちと楽しく平穏に暮らしていることを想定させるものとなっている。歌詞もメロディーもカッパの思いと願いをうまく現しているものと言えよう。この曲が終わると、次の川の中のカッパたちの寄り合い場面が変わる。ここでも「カッパは悪戯大好き」は舞台変換の時間も観客にドラマの世界に浸ってもらうために歌われるが、この曲は最後にも歌われ、このオペレッタの中心的な曲の一つともなっている。

③《ある日、カッパ村に全員集合のお触れがあり、長老が100年に一度の生け贄の儀式の日が三日後に迫っていることを弱り切った面持ちで告げる。10才の人間の子と言えはゆきのちゃん。小太郎がここへ連れてくることになった》

この場面の冒頭はAmollの分散和音で始まり、これから始まる暗い内容を予想させている。長老は、カッパがここで暮らしていくには、掟により川の主に10才の人間の子どもを差し出さねばならぬことをAmoll4分の4拍子10小節の「長老の歌」（楽譜5）で表現する。ここでは深刻さを一層深めるために、静かなmollの分散和音の伴奏をずっと使用している。また、歌詞を重視して作曲されたため、3小節のフレーズが2回続き、次に4小節で纏められている。次にカッパたちが10才の人間の子はゆきのちゃんであることに気付く歌（楽譜略）では、中程のピアノのガンという音が緊張感を高めるために効果的に生きている。これで人間との交流は終焉を迎えることを示すために、カッパたちの葛藤をピアノのみで表現するAmoll4分の3拍子8小節（楽譜6）の簡単な曲のメロディーを繰り返すことにより、静かな中にも深刻さを持つ表現が出来たものと思われる。即ち、カッパたちは悩んでいる素振りを演技し、音楽がその場の雰囲気を強調することに成功している。

④《小太郎は、ゆきのを川の中に連れてくるのがどうしても出来ない。明日も遊ぼうと帰って行くゆきのを呆然と見送った小太郎は、何かを決心したようにカッパの村へ帰って行った》

この場面で歌われる曲は、ゆきのが小太郎を遊びに誘う歌と小太郎がゆきのに“カッパの村に行きたい？”と尋ねる歌、やっぱりだめだの歌、指切りげんまんの歌などである（楽譜略）。

ここでは、ゆきのの無邪気さと小太郎の戸惑いを、短いわらべ歌調の曲に託して表現したものであり、二人の会話という形の時間経過の中にも、小太郎の悩む姿が明確化され、緊張感溢れる場面がメロディーと共に上手に描かれているものと見てよい。小太郎がゆきのを連れて行かないと決めて舞台を去るが、次の場面転換のための暗転の間、スキヤット①のメロディー「ルルルー」(楽譜7)が合唱で流れる。それは、今までの緊張感と次の展開への期待感を持つために充分機能しているものと言える。これはAmoll 4分の4拍子20小節の構成であり、8分音符中心の部分と4分音符中心の部分とが緊張と期待を高めるためにうまく使い分けられている。

⑤ 《ゆきのを連れずにカッパ村に戻った小太郎が、自分の皿を割って人間に見せかけて生け贄になるという決心を打ち明け、母親の制止や仲間の心配を振り切ってそれを決行してしまう》

ここでは、小太郎が親や仲間に歌いかける「身代わりになる」歌と母親の心情を表現した「だからって」で始まり、その後、止めようとする母親と決心の固い小太郎とカッパ村の者たちとのやりとりも歌声で表現されるが(すべて moll。楽譜略)、セリフだけでは深刻になり過ぎてしまう心の葛藤描写が、メロディーが付くことによって和らげられ、観客の心のバランスを程良く調和させているものと言えよう。音楽の持つ不思議な力を実感する場面である。音楽が終わった後の小太郎の叫び声「おらの責任だ! やめてくれ母さん!」のセリフが一層心に残る効果も生んでいる。

⑥ 《人間の着物を着たお皿のない小太郎が川の主のもとへ行き、皿がないのだから人間だと言いつ張るが、母親が思わず「小太郎!」と叫ぶことで、カッパと見破られてしまう。何も悪いことをしていないが、掟を破ったためにカッパの村は潰されてしまった》

⑤に続いてスキヤット②のメロディー「ルルルー」Amoll 4分の4拍子11小節(楽譜8)が流れる中、舞台は照明だけ変えて川の主の裁きの場面に移行する。ここで再び母親の心情を現した「母親失格」Amoll 4分の4拍子19小節(楽譜略)が歌われるが、その直後にお皿を割るシーンになる。ガーンという効果音と「いたいよー いたいよー」の言葉の後に、ゴーゴーという川の流れるの音と共に川の主の声が聞こえてくる。声にはエコーをかけ響かせたものにしてあるが、それは威厳を感じさせる効果を生んでいる。この後、小太郎のソロと合唱とのかけ合いで「人間が好き」Cmoll 4分の4拍子8小節(楽譜9)が繰り返し歌われ、続いてカッパたちの「ちょっと待って下さい」Cmoll 4分の2拍子10小節(楽譜10)が早いテンポで歌われるが、川の主の“待つ必要はない!”の声で暗転になる。ここでは、川の主が姿を現わさずに声だけにしたことが、巨大で得体の知れない存在に対する不可解さを増す効果を出しているようだ。「母親失格」では、切っても切れない親子の情愛の深さを、「人間が好き」では、人間との友情の大切さを、また、「ちょっと待って下さい」では、悪いことをしていないのに裁きは不当だという気持ちを現わし、夫々観客の共感を誘っている。それらを積みかけるように歌うことによって切迫感・臨場感を高めていく。しかし、願いも空しくカッパ村は潰されるという結末を迎える。誰が何時決めたか分からない「掟」に縛られるカッパを通して、自分たちの思いや力

の通用しない、どうしようもない世界のあることを実感させるというものである。ここでの曲調は全て moll であり、やり切れなさや悔しさ、哀しさ、切なさ、ある種の美しさなどが複雑に絡み合い、その印象を長引かせるための機能をうまく醸し出しているものと考えられる。

⑦《次の日、子供たちはカップ音頭で遊んでいたが、今日に限ってカップは出てこない。その後もカップの姿を見た者は誰もいない。子供たちは無邪気にカップ音頭で遊び続けている》

ここでは、ゆきのの「カップさん遊びましょ」(楽譜略)の無邪気な明るい問いかけ歌に続き、子供たちがカップ音頭で遊ぶシーンになり、遊びの曲に重ねるようにして「カップは悪戯大好き」(前述)の合唱が歌われ幕が閉まる。ここでは、カップ村が消滅したという悲惨な結末を、子供たちの無邪気さと対称的に扱うために、子供たちの歌を明るくした。そして、観客の揺れ動く心の葛藤を鎮め余韻を味わうために、「カップは悪戯大好き」で、明るいカップの様子を歌って締め括りとしている。

### 3. 受容感覚の点から

創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅠの調査では、構成要素のうち、音楽はストーリーに次ぐ第2位にあげられていた。そのうち、特に印象に残った点を自由記述してもらったところ、肯定的なものが90%を占め、批判的なものが9%、その他1%であった。この数字は、音楽が受け手にとってかなり心地好いものであった証拠とも言える。肯定的な記述には、場面によく合った音楽や歌やメロディーで、その場の雰囲気がよく出ていたというもの、悲しい時は暗い感じ、嬉しい時は明るい感じの音楽が流れ、場面が変わる時もピアノが流れるなど、ここぞという時に素敵な音楽が流れていたというもの、演技と一体化していて、見ていて引き付けられる、などがあつた。また、批判的なものには、ピアノと歌だけで少し淋しい感じがした、全体に暗い感じの音楽ばかりだった、などがあつた。

次に、「カップの夢」には合唱曲・独唱曲・ピアノ・描写音楽(効果音を含む)などが使用されているが、その中で印象深いものの順は1位合唱33%、2位ピアノ31%、3位独唱28%、4位描写音楽8%であった。1位の合唱では、皆の声が揃って調和がとれきれいに響いていた、ハーモニーが素晴らしくボリュームもあり感動した、場面によく合って盛り上げていたなど、殆どが肯定的にとらえていた。2位のピアノでは、感じが出ていて大変上手だ、場面に合わせて効果的に使われていた、歌を消さない音量で良かった、ピアノ伴奏に添って物語が進んでいったなど、すべて好印象の記述ばかりであった。3位の独唱では、大きな声で自信を持って言葉をはっきりと歌っていた、役の気持ちになって歌っていた、よく通る素晴らしい声で上手だったというものが多く、もう少し大きな声ではっきりとした方がよい、迫力に欠ける、役の特徴をもっと出した方がよいなどもあつた。4位の描写音楽では、雰囲気が出ていた、場面に応じた音楽だった、オペレッタの良さを引き出して迫力があつた、ストーリーを一段と盛り上げていたなどが大半を占めたが、その他、大体似ていてもっと変化が欲しい、強弱のメリハリをもっと付けて欲しいなどもあつた。

また、全部の音楽の中で一番印象に残った曲については「カップ音頭」が群を抜く1位で、次にテーマ曲「カップの夢」、そして「カップは悪戯大好き」という順であった。「カップ音頭」は単純で陽気なメロディーに手拍子入りの踊りが付き、誰にでもすぐ覚えられる良さが評価されたものと考えられる。また、小数ではあるが「スキヤット」「母親失格」「人間が好き」「長老の歌」があげられていた。「カップ音頭」が他の追従を許さなかったのは、当初からこのオペレッタのメインとして位置付けて作曲したこともあり、その意味では作り手の意図が確実に受け手に伝えられた好例と見ることが出来る。

### Ⅲ 創作オペレッタにおける音楽の位置付け

創作オペレッタを作ることは、音楽を伴う劇を作ることに他ならない。従って、劇を構成する諸要素と音楽との融合は不可欠である。作品「カップの夢」においては、ストーリー性が音楽を凌ぐ構成要素として認められたが、ストーリーか音楽かという議論はオペラやオペレッタのような音楽の付く劇形態をとるものの宿命でもある。1999年9月30日の信濃毎日新聞朝刊に掲載された片桐卓也の「オペラにはどんな未来が」によれば、9月上旬に松本市で開催されたサイトウ・キネン・フェスティバルでのオペラ“ファーストの劫罰”は、「映像を大胆に活用しつつ、ダンスやアクロバットもとり入れる手法だった」ことに触れ、音楽とドラマの融合の難しさについて「オペラは17世紀初頭のフィレンツェで誕生したが、その時から既に音楽だけでなく文学・美術・建築などの様々なジャンルの芸術家が協力する一種のマルチ・メディアだった。だから、20世紀のオペラが20世紀のメディアである映像をそこにとり込んでいくのは自然な流れだ。同時に、オペラとは音楽であり歌であるという考えも始まりから根強い。オペラにおける歴史的論争は、歌・音楽の面白さか、ドラマ性・演劇性が優位かという対立点を巡って永遠に繰り返されていると言ってもいい」と述べている。さらに、ドイツの作曲家ワーグナーについて「彼が〈楽劇〉という概念を使って音楽・歌とドラマ性を融合しようとしたのは、その永遠の課題への彼なりの解答だ」と述べ、現在でもこの課題が残っていることに触れ、過去のオペラでも新作オペラでも、音楽とドラマ性のバランスが大切で、その相乗効果がどこまで発揮されるかが重要であることに言及している。そして、私見として「良い演出は音楽が良く聞こえてくる」が、“ファーストの劫罰”では音楽がよく聞こえてこなかったと結んでいる。

今回考察している「カップの夢」の構成要素の調査結果からは、ストーリー性が音楽を僅少で凌いで優位を占めているものの、両者はほぼ拮抗した数字になっている。片桐卓也の評を借りるとすれば、これはかなり良い作品の範疇に含まれるのではないだろうか。演出や表現に工夫を加える試みは今後も必要不可欠であろうが、今後、オペラやオペレッタを成功させるためには、劇と音楽の程よい融合がキー・ポイントであることが分かった。

#### Ⅳ ま と め

創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅠにおいて、一番印象に残るのはストーリーで、その作品の性格を決定付ける第一要素であることが分かった。それを踏まえて、創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅡでは、ストーリーについて特にドラマ性の面から詳細に考察した結果、送り手の意図するテーマを対象者に確実に伝えるためには、テーマや内容の適切さと、ストーリーの展開方法が重要な鍵を握ることが分かった。しかし、ストーリー運びのみならず、そこに使われる音楽もそれに劣らずまた重要な存在であることも分かっていた。

そこで今回は、創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅢとして音楽をとり上げ考察を加えてきた。その結果、「カップの夢」では音楽はストーリーをドラマチックに進展させるためには無くてはならないものとして機能し、時にはストーリーそのものを進展させ、時には場面ごとの雰囲気盛り上げ、演技と一体化して観客にアピールし、時には得も言われぬ感情を生み、心情を突き動かす力を持っていることも分かった。もとより、音楽を伴う劇形態をとるオペレッタのような場合、ストーリーと音楽を切り離して論ずることは難しいが、敢えて独立させて考えてみることもまた意義があったものと言えよう。即ち、いかに不即不離であるかが改めて見えてきたからである。また、どちらに重点が置かれることが望ましいかについて、オペラが誕生した頃から論争的になっていたというのも頷ける程、順位を付けることは難しい。観客の緊張と弛緩を巧みに手繰ることによって、心地好い集中の得られるものが好作品と言えるのではないだろうか。いずれにしても、ストーリーと音楽の絶妙のバランスを得る手法については、送り手側の意図次第であると言えよう。

楽譜 1

カッパの夢



むかしむかし あるむらに きれいな かわの



そのなかに カッパのせかいが あつたとさ



カッパは みんな こころのやさしいものばかり



いつも むらびとたちと なかよくなりなとおもつた



そんな あるひ こたろうは



むらびとと なかよくなつた



でも おやたちは はんたいしていた そうな



楽譜 2

遊びましょ

(ピアノ) (子供たち)

ゆきのちゃん あそびましょ

(ゆきの) (ピアノ) (子供たち)

はーい きょうは どこへい

(母ちゃん)

く いつものかわへいこう 川へなんか行くんじゃないよ!

(子供たち) (ピアノ) (カッパ)

カッパさん あそびましょ いいよ

楽譜 3

カッパ音頭

ソーレ

おいらのいちばん だいじなものーは  
おさらのつぎに だいじなものーは

さらさら さらさら さらだよ ウンパパ  
こうら こうら こうら こうら こうらだよ ウンパパ

楽譜 4

カッパは悪戯大好き

カッパはいたずら だいすき かわのなかへ こどもを  
ひきずりこむ わるいやつ そうおもって いたけれど  
こころの やさしい にんげんおもいの よいカッパ  
カッパのせかいと にんげんのせかいが ひとつになれば いいね

楽譜 5

長老の歌

(ピアノ) (長老)  
い ま カッパのせかい—  
が こうしたくらしに なっているのも すべて  
かわのぬしに いけにえを さしだした おかげじゃ

楽譜 6

カッパたちの葛藤のピアノ曲



楽譜 7

スキヤット①「ルルルー」



楽譜 8

スキヤット②「ルルルー」

ルルルーで歌う

Musical score for 'スキヤット②「ルルルー」'. It consists of three staves of music in 4/4 time. The first staff begins with the instruction 'ルルルーで歌う' (Sing 'Lululoo'). The melody is simple and rhythmic, consisting of quarter and eighth notes. The second and third staves continue the melody, with the third staff ending with a double bar line.

楽譜 9

人間が好き

Musical score for '人間が好き' (I like humans). It consists of two staves of music in 4/4 time, with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). The first staff has lyrics underneath: 'にんげんたちと なかのい い いけにえなん て で きま せ いん'. The second staff continues the melody with lyrics: 'と も だ ち で い た いん で す に ん げ ち ん が す き なん で す'. The score ends with a double bar line and repeat dots.

楽譜10

ちょっと待ってください

少し早目に

ちょっとまって ください わたしたち カッパはなにも

していないのに なぜですか おしえてください

なぜですか

《注および引用・参考文献》

- 注1 北村恵子 1997 創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅠ 上田女子短期大学  
紀要 第20号
- 注2 北村恵子 1998 創作オペレッタの構成要素に関する研究 そのⅡ 上田女子短期大学  
紀要 第21号
- 北村恵子 1988 創作オペレッタの作り方 樹芸書房
- 北村恵子 1994 音楽表現の世界 樹芸書房
- 片岡卓也 1999 信濃毎日新聞 9月30日朝刊15面「オペラにはどんな未来が」